

診断報告書作成で研修会

福井診断士会

宮里金沢工大 助教授を講師に 実践形式で好評

福井県コンクリート診断士会（石川裕夏会長、正会員24人、賛助法人5社）は3月15日、福井市の県職員会館で、劣化コンクリート構造物の調査方法に関する研修会「コンクリート診断報告書の作成手順とは」を開催した。参加者は24人（正会員19人、賛助法人会社から5人）。金沢工業大学の宮里心一助教授を講師に招き、コンクリート構造物の劣化調査方法の進め方やコンクリート診断報告書の作成法、最新の劣化事例の紹介などが行われた。



同研修会は「劣化した構造物の写真を見て、その場で実際に診断する」

機会も与えられるなど、より実践に近い形で行われた。参加者からも非常に好評で、

「コンクリー

ト構造物の標準調査の進め方や診断報告書の様式、作成方法についてよく理解で

研修会には正会員、賛助法人から24人が参加

きた。今後、実践の場での声が挙がった。生かしていきたい」など

同診断士会は、コンク

リート診断士の資格保有者を対象に、全国に先駆けて昨年3月に発足したもので、事業目的は①専門技術の継続的な研修と研鑽②土木建築行政や建築関係者への協力③他団体との連携・情報交換など。発足後、1年を経て「福井県内ではコンクリート診断士の存在は広く認知されるようになった。次のステージとして研修会の充実、他団体との連携・情報交換を進めていきたい」（石川会長）としている。